

# いま、再び出会う 松井やより 全仕事

年末まで会期延長！  
海外や遠方の方も、この機会に  
ぜひ、ご来館ください。

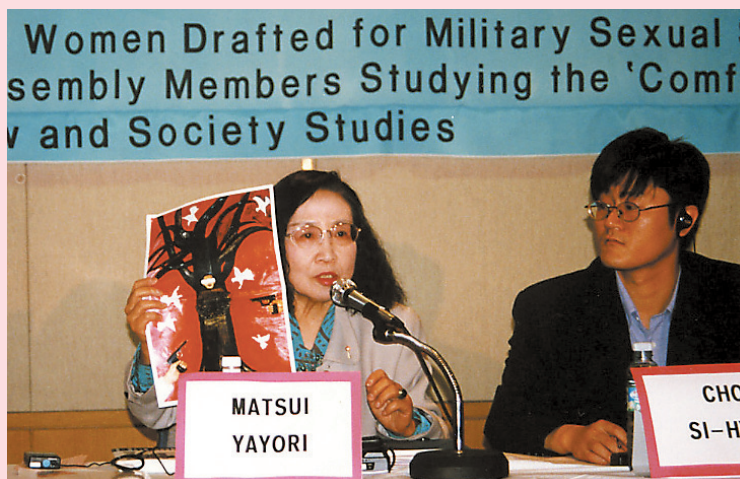
2022年12月10日(土)～2023年12月24日(日)

松井やよりさん(1934年4月12日－2002年12月27日)は、日本を代表するジャーナリストの一人でした。公害、食品汚染、買春観光、アジアと開発援助、女性の人権、JFC(日比混血児)、そして日本の戦争責任と日本軍「慰安婦」。どれも鋭い切り口で世論を喚起し、読者は「私たちは何に怒り、どう行動すべきか」を考えずにはいられなくなります。

ジャーナリストは「中立」でなければならない—そんな圧力からも、やよりさんは無縁でした。新聞記者をしながら、女性活動家としてNGOを立ち上げ、市民運動に積極的に参加。NGOという言葉をいち早く日本に紹介し、市民やジャーナリストがどう社会を変えていくのか、自らが行動で示しました。68年の生涯を駆け抜け、「女たちの戦争と平和資料館」の夢を託して亡くなった松井やよりさんの足跡をたどります。



シンガポール特派員時代(1981-1985)、やよりさんは18カ国を訪ねて現地のできごとを日本の読者に届けた。1984年には、朝鮮から連行されて戦後もタイに住んだ日本軍「慰安婦」、盧寿福さん(左)のインタビューも紙面に登場した。



姜徳景さんの「責任者を処罰せよ」の絵を掲げながら、女性国際戦犯法廷の構想を説明するやよりさん。戦時性暴力の不処罰を断ち切るこの法廷が最後の仕事となった。

## 主な展示内容

### アルバムでたどる子ども・青春時代 新聞記者としての全仕事

- ・高度経済成長：水俣病、食品汚染
- ・女性の視点：買春観光反対、女性差別撤廃条約
- ・韓国の民主化運動、日本軍の戦争犯罪
- ・政府開発援助(ODA)とアジア

### 松井やよりと女性運動

#### 松井やよりが書いたもの

朝日新聞に書いた記事だけでなく、ミニコミや雑誌も含め、やよりさんが書いたものを館内で閲覧できます。

# 日本軍「慰安婦」、基本のキ

## 2022年12月10日(土)スタート

「日本軍『慰安婦』制度って、本当はどんなものだったの？」

マスコミやインターネットの情報だけではわからない、日本軍性奴隷制度の実態を知りたいと思う来館者が、老若男女問わずwamに足を運んでくれます。そこで、日本軍「慰安婦」制度の基本がわかるパネルをセレクトした「基本のキ」を常設展示にすることにしました。

日本軍「慰安婦」制度のしくみ、日本軍から性暴力を受けた各国・地域の女性たちの証言や元日本軍兵士の証言、アジア太平洋地域に広がった慰安所の地図と日本軍の公文書。教科書では触れられてもほんのわずかな日本軍「慰安婦」制度の被害と加害の概要を伝えます。



### 日本軍「慰安婦」制度と元兵士の証言

いつ、どのように、何のために慰安所がつけられたのか、日本軍「慰安婦」制度の基本のキをQ&Aパネルと2019年にリニューアルした日本軍慰安所マップから解説。自らの戦争加害に向き合った元日本軍兵士の証言も紹介。

### 各国・地域で名乗り出た被害女性たち

各国・地域で最初に「慰安婦」とされた被害を語った女性たちの証言からは多様な被害実態が見えてきます。



## 会員になりませんか？

●友の会年会費：3,000円 ●維持会員年会費：10,000円

会員にはニュースレター(年3回)のほかイベント案内などを逐次お知らせします。維持会員は入館料無料。各種セミナーや刊行物の割引もあります。

郵便振替口座番号：00110-2-579814

口座名称：「私たちの戦争と平和人権基金」係

# wam

アクティブ・ミュージアム

わたしの戦争と平和資料館

women's active museum on war and peace

開館時間：金・土・日・月 13:00~18:00

2月11日、2月23日、4月29日、11月3日は「祝わない」ため開館

休館日：火・水・木・祝日(天皇制由来の上記4日を除く)

※時間外の団体来館はご相談ください。  
※展示入れ替え期間と年末年始は休館となります。

入館料：18歳以上 500円

18歳未満 300円

小学生以下 無料

※障害のある方の付き添いは無料です。

東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F 〒169-0051  
T:03-3202-4633 F:03-3202-4634 E:wam@wam-peace.org  
URL:https://wam-peace.org Twitter:@wam\_peace

